

春期搜索行計画

1955. 4. 22

5. 6

津島高山部

三重大山部

岩稜会

28

参加者名表

先鋒隊

石原一郎
石原利實
南川治實
高井吉史
石田正則
今井喜太郎
滝川重基
山口康夫
常保進
栗田吟哉

静岡県直方市殿町
東京都世田谷区深沢町1-247 三田弥太郎氏
津市古河
三重郡楠町本郷
東京都杉並区神田町46 小林方
鈴鹿市神戶新町
長野県下伊那郡河野村北垣外
三重郡楠町南川
松阪市山笠
東京都渋谷区長谷戸65 深瀬方

岩稜会
岩稜会
三重大
津大岩稜会
特別参加
津大岩稜会
三重大
三重大
岩稜会

後鋒隊

石岡繁雄
伊藤純男
松田武雄
空 敏弥
高井利基
√ 森 泰彦
√ 北川正子
√ 長谷川忠男
太田清嗣
鈴木
青木
山北
大橋 進
吉川
若山英太
若山富雄

名古屋市昭和区南山平通1-1 名大附会内
鈴鹿市神戶新町
鈴鹿市神戶南宮町
鈴鹿市神戶河町
多気郡三羽谷町佐原 富川南彦氏所
四日市市神ノ島
津市南塚 瑞中 鬼津五郎 菅葉課内
鈴鹿市千代崎町
東京都渋谷区長谷戸65 深瀬方

岩稜会
岩稜会
岩稜会
岩稜会
岩稜会
岩稜会
岩稜会
津島高
津島高
津島高
津島高
津島高

津島市今市場三丁目

搜索行リーダー
搜索隊 リーダー
各山会連絡先

石岡繁雄
石原一郎

津島商 TEL(津島) 2463
三重大 TEL(津) 2582
岩稜会 TEL(四神戶) 372

§ 裝備の部

1. 共同裝備 (總必要量及各団作割当量)

必要裝備品目	總數量	岩稜會	三重大	津島高	備 考
ザイル	30m x 14	12	2		
ハンマー	6	2	2	2	
カラビナ	20	20			
ハーケン	40	30	5	5	
テント	8	6	1	1	
エアマット	12 (4張分)	6	3	3	
スフツフ	2	1		1	
ラジューズ	8	4	2	2	
フツフェル	3		1	2	
ナベ	大 2 小 4	3	2	3	
食器類	30人分	20	5	5	
葉 罐	3	1	1	1	
しぼりば	各 6	各 2	各 2	各 2	
鹿下 鋳 釜	各 6	各 2	各 2	各 2	
ラジオ	3	1	1	1	

<合宿費に購入したもの>

- ロウソク 10匁 5打
- 魚の子おろし 各 4
- 革油・糸・紐
- 荷札・針糸
- 救急薬一式
- 烽火・赤旗 20~30本

- 石油 3斗
- 圓形灯
- PLV 2本
- ガソリン 2斗

<其他>

- 御飯 煮 1
- 望遠鏡 1
- 積負子 2~3
- 鉄板 1
- フィルム 2~3

1. 個人裝備

ピッケル	出合に1本	シラフザック	全 負	ラテックススベア	全 負
アイゼン	2本の	キスリング	〃	眼鏡	2本の合計
サブザック	全 負	アライツク	〃	衣類一式	全 負

§食糧の部

主食の配分(細目畧)

朝食は池食舎で米一人一日三合とすはこし。

ホテルの食事には一食一人米 1.5合の割合とすはこし

中食は行動食はパン類とし、停滞食はめん類を二人一束の割合とすはこし。在ほ前夜宿泊地のものを利用し。

<必要食糧総量>

米	8斗	ハム	3本	ジャコ	300匁
パン	200ヶ	レバー	2ヶ	ケズリ粉	10袋
めん類	30束	肉	3ヶ	野菜	10ヶ
味噌	2.5ヶ	バター	2ポド		
鹽油	4ヶ	マカロン	4ポド	ソービー	4ヶ
ソース	2ヶ	食用油	1ヶ	紅茶	6ヶ
カレー粉	6ヶ	マネズ	3ヶ	緑茶	600匁
からし	3ヶ	福神漬	3ヶ	キャラメル	1,000匁分
唐辛子	10ヶ	油揚	30ヶ	餅菓子	6箱
モシグ	10束	わかめ	15束	ミルク	10缶
小長粉	5袋	干物	1,000匁分	レモン粉	3袋
塩	3ヶ	シカゴ刺	6袋	干ばどう	3ヶ
砂糖	10斤	塩辛	6ヶ		
味の素	6ヶ	すゝめ	6束		

<備考> 主食・副食は池(奥又白地テント)・出合(奥又白出合テント)・ホテル(ホテル宿泊及上高地宿泊分)の3つに分ける
各梱包毎にその使用場所(前記の池・出合・ホテルの区分)及使用日数・用量等の細目を記入しおろす留意すはこし
各テント責任者は常に食糧の現在量に留意し補給は同端は行り、行動に支障を来させないようにすはこし

<補給> 池テントへの装備並に食糧の荷揚は後発隊到着迄に終了しはこし(四月三十日を最終荷揚日とし)
出合テントへの荷揚は後発隊の到着を以て最終とすはこし
後発隊到着後は池~出合間、出合~ホテル間とも連絡だけとすはこしというのが望まじり
後発隊の中池へ上るものは殆んど個人装備のみでホテルより池テントに直行すはこし

春期捜索行行動予定表

昭和30年4月22日～5月6日

月・日	天候	村人負	出合人負	地人負	備考
4.22					東京組3名及神戸より1名各に夜行にて出発す
4.23					上記4名ホテルまで荷揚げす 神戸より2名夜行にて出発
4.24					先鋒10名全負にてホテルまで荷揚げす。先の4名を荷揚げに下りし ホテル人負 出合人負 地人負
4.25			10名		
4.26			5名	5名	
4.27		3名	5名	5名	捜索開始 後鋒16名夜行にて出発す 荷揚げ準備日 後鋒ホテル着
4.28			5名	5名	
4.29		16名	5名	5名	
4.30			7名		池への荷揚げ終了
5.1			7名	12名	
5.2			14名	12名	
5.3			14名	12名	
5.4			14名	12名	捜索終了
5.5			26名		全負撤収下山
5.6					早朝全負帰宅
(備考) 奥又白地テント 石原兄・石原弟・柳川・高井・前田・石岡・伊藤・松田・聖高・祝見・北川 奥又白出合テント 今井・滝川・山口・常保・黒田・長谷川・太田 上高地～出合 鈴木・青木・山北・大橋・吉川・若山英・若山富					

春期捜索行行動表

1955.4.23～1955.5.6

月・日	天候	村人負	出合人負	地人負	備考
4.23	(曇)				名古屋 22:40 奈良野行にて 5名等 新宿 22:15 奈良野行にて 3名等
4.24	(曇後雨)	8			8名にてホテルまで荷揚げ完了(15:00)
4.25	(快晴)		8		8名にて出合に荷揚げテント設置 部隊長夜行にて帰 (15:30) 部隊長ホテル着
4.26	(快晴)	1	8		
4.27	(曇・雨)	1	8		雨のため停滞
4.28	(晴・月夜)		5	4	名古屋 22:40 奈良野行 13名出発 池テント設置 部隊長池へ
4.29	(曇後晴)	15	3	4	捜索開始(4名) 三本橋に15分 後鋒ホテル着(15:30)
4.30	(晴)		13	9	後鋒 5名池へ 8名出合へ 5名 彌巻まで戻り出合へ
5.1	(雪・晴)	+	13	9	雪のため停滞 墨汽車に4名・夜行にて(1名 名古屋等)
5.2	(晴後曇)		16	11	最後鋒 4名池へ 1名出合へ オニテラス捜索(5名) 3名ホテルへ(連絡に降る)
5.3	(曇後雨)	4	11	15	オニテラス 捜索 4名 ホテルへ(降る) 北穂会 4名池へ
5.4	(雨後晴)	23			1名下山 全テント撤収 3名 西米屋泊
5.5	(快晴)				16名下山 10名 片附のついで 彌巻泊
5.6	(晴)				全負帰宅 合宿終了

春日新撰系行

1199
APR 11

連難事件以来早しも百日以上経過した今日、雪解けも文字通り
首と長とを併せて行なうは四月中旬から五日上旬にかけて連休を利
用して捜索行とははじめの大部隊から山行を故おのこたなる
準備は三月下旬末入院をいって退院して行なう早速^{準備}に程
止した。石原一郎^{捜索隊}として少人数十三名、三重大学本部主任
津島高のら、石原、その他三名からなる二十名程度の人数に及ぶ予定で
あった。捜索行の計画は主として学生會員を中心とした先発隊が荷場
の下敷字を打つて行なう後、隊が到着次第捜索に務めよう
とあり、思ひがけぬ、残雪も新雪のため行動ははかばかす止まなし
引返したのびあつたがその行動記録を当時の日記と記憶^欄をともに
綴つておくことにしよう

四月十五日新道隊三三五長野行は石原、石田、里田の東京より
生野隊三名、石原、石原、三三五長野行は南川、今井、滝川、常保、小坂の
三重大学の先発隊五名勇躍、松本へ向けて出発す。

四月十四日、石原、石原の五名は三三五、東京隊の三名は四、五、六、七
松本駅に着き、合流す。^同個人準備令先百貫を軽とボウ
し、荷物も田舎に荷揚げすべし、一応島をまわ電車で行く
島に到着後、深山荘より人と相談して結果、小雨かばうつま
めたことと平伝つてハイカー二台を連れぬ一行は所々行くとす。

途中中や、難行は同所もあるが、警備、山村、美免場、
銀谷、定、坂巻、昇^坂、利、お、かね、探、投、した、か、う、十一、時、頃、に、中、の
湯まで到着す。前日までは坂巻、坂巻、坂巻、坂巻、坂巻、坂巻、坂巻、坂巻、
シ、の、運、を、ん、受、す、も、フ、ォ、ト、に、か、く、成、淵、了、中、之、湯、ト、伝、湯、に、
二、見、越、さ、う、載、り、心、を、ま、う、御、守、為、に、腹、を、し、ら、せ、し、や、う、や、と、本、陣、
に、在、る、未、だ、冷、た、雨、中、を、今、夜、の、泊、り、場、~~目、指、し、て、登、り、~~

全負夜行より疲れと平均十三貫以上という重荷物を平伝つて
 後橋金目下下着の足袋三所カシ前位であった。いよいよ雨の中を重
 荷をもつてお合まで直行するよりは体を弱くすなわけたと思ひ木下川に泊る。
 四月二十五日(快晴) 昨日の雨が雪であると思はす位 兼晴くしくも
 には冬かきが残置物又今日の荷揚げ品をも各々下着に梱包し直し
 北口研栄所り御好意にまじり賀賀子に入貫か九貫つたり荷をかつて
 董橋を渡つたりが十一時頃であった。兼息場手前り明神橋の流氷に
 いよいよお近づいたりを梓川に右岸の道を通え行し、十時五分兼息場
 に着き ^{兼息場} 荷物七つを加えりし雨に梱包を行ひ、兼食を済ませし時
 に出発し 兼又白出合に泊り、テ下は今日より来た二つて取敷き使用す。
 四月二十六日(快晴) 昨日に引続き 兼晴くしく快晴に思ふれり。目が痛
 くならずは紺碧の空にくもりと線を描く前穂の稜線が今更のよりに
 美しく感じらるれり。兼 兼はかきいさく本格的な行動開始である。
 八日五分 石原、石田、南川、滝川の四名が又白地へ出発す。●同じく所
 木下川に残置物も荷物の木下川にあり兼田、常保、小坂の三名が下へ降りり。
 池下川の四名は中島新道を通り又白地に到着後(十二時) 冬かき残置品
 を添り出し、テントを乾かたりし兼地作業を行ひ、出合へ帰り(十六時)
 やつて兼下川へ下りた三名も帰り八名とも出合に泊り。
 四月二十七日(曇・雨) 雨風強し荷揚げ中止と決め、午前中は荷物の
 整理を行つたが、雨は止まらずに午後から新岸へ出合から
 直行出来ぬまうに橋をかきしるに流氷を運ぶに二所内余りど木
 橋は成功す名付けんすもや橋とす。
 四月二十八日(晴) やつ風が強かつたが荷揚ははたして差支なく、こは
 九名の石原、南川、石田、滝川、兼保、小坂の六名地へ荷揚げす。

五日二日(晴夜曇) 出合より長谷川・太田・小坂・島野・鈴木・山北・服部

大橋・吉川池(折場)の上。池より石原兄弟・松田・石田・南川・文晴に

出合す。石原兄弟・松田・吉川池(折場)より池下り又は蓮子より種男

量予想外に望し、且つ雪の状況極めて不安定を為し、捜索を中止し

移住に併せて石田・南川と共に三四日セントに帰す。社長・島森・

高井の四名出合に重食後(十二時)池へ到着す。午後やつて小坂

井出合に到着。滝川・釜魚場より三つを取水し下り。十九時三十分折場

向うに支給れ名若山兄弟とも下り来る。バクと気焔息の報告を

聞し。若山兄弟、今井・滝川はバクカスより氷沢橋より西小坂へ下り北穂合の

方面に氷櫃を掘り下り(十七時) 小山沢池に快下し引受けより御

返事載せ、ホテンに〜スツツ四ノ科指し、二時時言合出合に帰す。

五日三日(曇夜雨) 出合より新井・滝川・里田・常伴・山北・服部池へ上。

太田・大橋・正んへホカ下り。池下りより石原兄弟・室・松田・高井・森

南川・石田の八名沖テラスに向ひ、全員に沖テラスより探検作業行つて

雪量が大井ノ為深きと認め、沖テラスへの捜索を断念す。

テ下帰着中八名の社長が心配を込めて迎へに来す。午後北穂合

より小山・太田・小坂・平沢の四氏応援の為池に到着す。出合より

若山兄弟・山北・服部・小坂・正んへ池下りす。

五日四日(雨) 出合より新井・長谷川・若山・鈴木・吉川池(折場)向う。

朝より雨降りかき向ま小捜索続行不可能なため捜索を中止し

池下り(十時)出合セント(十四時)共撤收し、全員下山し帰す。

五日五日(晴) 折物整理のため石原・石田・新井・南川・今井・滝川・

長谷川・里田・太田・常伴より十名七人隊を全員夜行に帰す。

石原・石田の二名、釜魚場へ探検者の折物の整理をす。出合より

五日六日(晴) 十時時言合の上は石原・山下の二名、春期捜索行状す。

(後記)

投票が成功に終ることは、さうな事は考へまじき事である。不
 十が、心バットにも必ずしも不明瞭な事態を引き起し、自ら事を起したリ
 わけには行かない。雪の中は眼、肉親の愛を思ふ御兄弟の気併をば分り
 す。強分るは、雪の中は眼、肉親の愛を思ふ御兄弟の気併をば分り
 不ありは、
 二つの場合、どうなるか。次は、今宿願者自体も大に
 反省する余地があると思ふ。王座にスリ^{成功}も併せ出さるべき
 何事をもさへあつたが、上部はさう考へる際には、必ず縁の下り力併せも
 いうべし、下種なり行動を行ふに、これは成功はあり得たりである。
 具体的には、一は生卒隊と後隊の気力相違である。生卒隊
 が雪中を十餘メリ荷揚を行つて、この後隊は、^あハキキと
 も少く、思はず、荷揚せし、全部の荷も上り、お出ますに坂
 巻は、残してたりし、不本意に、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 ちの中、後隊隊中、何人か、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 まも、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 そり、本意も、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 自身は、人向である以上、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 すべし、人向の行動には、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 又、さうあるべきが、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 心残り限り、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 和の精神が、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 縁の、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 には、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 した、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 いかした、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 種、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した
 摩、^あ研とあり。と、よくか、計画は、^あ上した